

広報

No.194

くらみ

平成元年 8月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

- 奥州合戦八百年祭..... 2～3
国保特集..... 4～6
ふるさとの文化財..... 7
おしらせ..... 8～9
公民館だより..... 10～11
わだい..... 12



国見町あつかし山

奥州合戦

八百年祭

'89 8月

今年は、文治5年（1189）に阿津賀志山を舞台として激戦がくり広げられた奥州合戦から、ちょうど800年目にあたります。

この戦いは奥州を支配し平泉を本拠とし栄華を誇っていた藤原氏を、全国平定をねらう源頼朝率いる鎌倉軍が攻め滅ぼそうとしたものでした。

合戦の舞台になった阿津賀志山中腹の旧奥州街道、大木戸字長坂にのぼりが設置されました。

八百年祭



今年、文治五年(一一八九)阿津賀志山を舞台に、藤原泰衡の守る奥州軍と、源頼朝の率いる鎌倉軍が激戦をくり広げた奥州合戦から、ちょうど八百年の節目の年にあたります。

町内には藤原氏が築いた阿津賀志山防塁跡が残されており、昭和五十六年に国の史跡に指定されました。

町ではこの記念すべき八百年を機に、記念事業を計画、「国見町あつかし山奥州合戦八百年祭実行委員会」が発足し、記念誌の発行、町内メインストリートを練り歩く武者行列、阿津賀志山々頂に記念碑を建立するなど、たくさんの方々の成功に向けて取り組んでいます。

また、町民皆さんをはじめ町内各事業所などから、記念事業の趣旨にご理解をいただき、多大のご協賛をいただいております。

奥州合戦八百年祭 記念事業

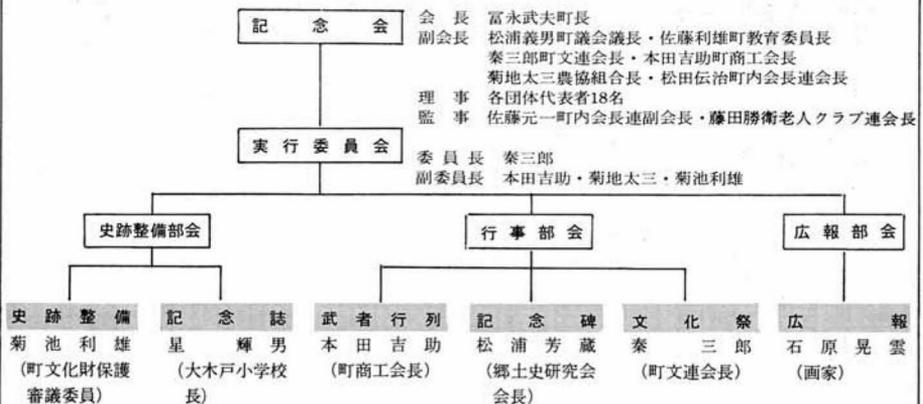
◆史跡整備

- 史跡保存管理計画の策定
- 史跡案内板・表示板の設置
 - 二重堀、硯石、義経の腰掛松ほか
- 史跡説明板の設置
 - 下二重堀、阿津賀志山々頂ほか

◆記念誌

- 奥州合戦八百年記念誌の発行
 - A5版、総カラー写真、ほか

国見町あつかし山 奥州合戦800年祭推進組織



※各部門については、部門の代表者のみ掲載(敬称略)

山あつかし町見国 奥州合戦

小学校高学年から中学生向けに編集し、九月下旬発行予定、町内全戸配布

◆武者行列

○源義経を中心とした武者行列
10月29日(日)
出陣式↓武者行列(公民館、藤田小学校)

◆記念碑

○阿津賀志山々頂に建立
碑文「追憶の碑」
〔吾妻鑑〕の一文を抜粋し
刻字)

◆文化祭

○奥州合戦八百年企画展
10月29日、11月5日
○奥州合戦八百年記念文化祭
11月3日、5日

◆広報

○ポスター、パンフレット、チラシの作成
○看板の作成
町内三か所
○記念絵ハガキの作成
三枚一組、町内全戸に配布

◆その他

○国見の四季記録ビデオの製作
○二重堀合戦パノラマ模型作成
○史跡めぐり健康ウォーキング



▲出来上がったPR用ミニのぼり



▲看板 (公立藤田総合病院前交差点)

～かわいい武者姿を
ご覧ください～

大木戸小学校「子ども夏祭り」

親子で工夫して作った甲冑姿で、かわいい武者たちが合戦をくり広げます。

日時 8月20日(日) 午後4時
場所 大木戸小学校校庭
主催 大木戸小PTA実行委員会

あつかし山奥州合戦
ナイトウォークラリー

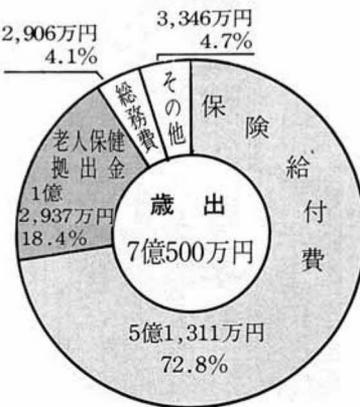
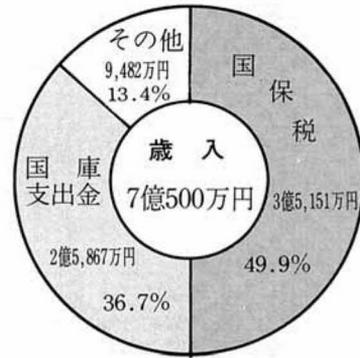
ホラ貝を先頭に「たいまつ、そがざし厚樫山山頂まで歩きます。

日時 8月19日(土) 午後5時30分藤田小出発
日 程 藤田小出発→厚樫山々頂到着→藤田小到着
17:30 19:00 21:15

受付 午後5時から
携行品 懐中電灯・ちょうちん・軽食・雨具など
主催 国見町あつかし山奥州合戦八百年記念会
国見町あつかし山奥州合戦八百年祭実行委員会

昭和63年度に使った国保医療費

一世帯当たり 33万円
一人当たり 11万円



一人十一万円の医療費

今年度の国保特別会計に占める医療費給付の割合は、歳出総額の九一%に当たる六億四千二百四十八万円で、昨年度と比べて一〇・四%の増となっています。

これを月割りにすると、五千三百五十四万円の医療費給付となり、年間一世帯当たり約三十三万円、一人当たりでは約十三万円となります。

前年度の医療費給付実績は、一世帯当たり約三十三万円(負担していただいた国保税は約十八万円)、一人当たりでは約十一万円(同じく国保税は約六万円)となります。

医療費が少なくなれば、当然負担すべき国保税が少なくなり、一人ひとりが常に健康に注意し、適正な受診に努め、医療費上昇にストップをかけましょう。

平成元年度の国見町国民健康保険特別会計当初予算は、七億五千万円で、前年度に比べ九%の伸びとなりました。伸びたのは、みんなで使う医療費の増加と、受診率の高いのが大きな原因となっています。

今月は、おもに国民健康保険と国保税についてお知らせします。

平成元年度 国保税税率

区分	課税割合	税率	前年度税率	対比
応能割				
所得割	42%	6.60%	5.79%	114.0%
資産割	10%	37.36%	36.10%	103.5%
被保険者割	33%	1人当たり 23,497円	1人当たり 22,664円	103.7%
応益割				
均等割	15%	1世帯当たり 32,373円	1世帯当たり 30,056円	107.7%

国保税率決まる

国保税計算例 (4人家族の場合)

- 所得額 1,550,000円
 - 課税標準額 1,270,000円
 - 固定資産税 55,000円 (平均額)
- I. 所得割 83,820円 (1,270,000円 × $\frac{6.60}{100}$)
- II. 資産割 20,548円 (55,000円 × $\frac{37.36}{100}$)
- III. 均等割 93,988円 (23,497円 × 4人)
- IV. 均等割 32,373円 (1世帯当たり 32,373円)
- 計 230,700円
- ※最高課税限度額 420,000円

平成元年度の国保税(現年度課税分)は、三億二千四十五万七千円で、前年に比べ、三百五十七万五千円の減、率にして一・パーセントの減少となりました。

国保税は、皆さんが安心して治療を受けるための大切な財源です。

この財源を大切に使うことはもちろんですが、納期内完納に、ご協力くださるよう、お願いします。

国保税

○一世帯当たり 一八二、七〇〇円

○一人当たり 六一、四七二円

健康を守るため 人間ドックを 受けてみませんか

個人負担は割です

町では、働き盛りで忙しい青年・壮年・実年の皆さんを対象に、入院（一泊二日）人間ドック、日帰り（一日）人間ドックを左記のとおり実施しますので、ぜひ受診されますようお願いいたします。

☆対象者

国見町国民健康保険の被保険者で、69歳までの方。

入院人間ドック、日帰り人間ドックとも申し込み順各百名

☆検査項目

（一）入院（一泊二日）人間ドック
平成元年10月～平成2年3月までの毎週火・木曜日。
（二）日帰り（一日）人間ドック
平成2年1月～3月までの毎週火・木曜日。

どちらの人間ドックも、受診者と病院の都合を調整して検診日を決定します。

☆検査場所 公立藤田総合病院

☆検査項目
（一）入院（一泊二日）人間ドック
身体計測、呼吸器系検査、循環器系検査、腎機能系検査、

胃腸系検査、胆のう系検査、肝機能系検査、糖尿系検査、血液検査

（各項目とも詳細に検査）
（二）日帰り（一日）人間ドック
入院人間ドックから、腎機能系検査、胆のう系検査を除いた全検査項目。

☆検査結果と事後指導
検査結果に基づき、健康指導を必要とする時は、医師の指示、あるいは保健婦により事後指導を行う。

☆人間ドックの料金

（一）入院（一泊二日）人間ドック
の検査料は五万六千六百五十円（消費税込）

※町の負担 五万一千五十円
※個人負担 五千六百円
（二）日帰り（一日）人間ドックの検査料は二万五千七百五十円（消費税込）

※町の負担 二万三千二百五十円
※個人負担 二千五百円
☆申し込み方法
個人負担金を添えて、直接町保健課に申し込んでください。

☆申し込み期限
平成元年8月31日（木）まで

◎人間ドックについて、詳しくは町保健課国保係までお問い合わせください。

☎八五二二一一一
（内線一四三）

老人保健の医療費

昭和六十三年度の老人保健医療費は、約四億七千二百万円に達しました。
老人一人当たりになりますと、約三十八万一千円かかったことになりました。

この医療費は、図のとおり保険者の拠出金や国、県の補助金などでまかなわれています。言い換えれば、皆さんや皆さんの家族が納めている国保税・社会保険料でなりたっていることになりました。

ところで、国見町の老人保健医療の特徴として、受診率の高さがあげられます。

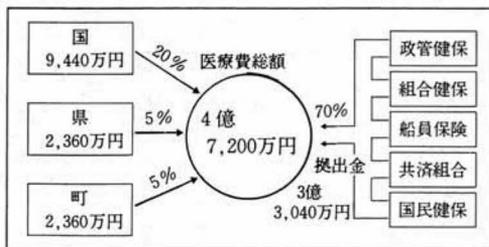
昭和六十二年度の一三・二・九%（県平均一〇%）は、県内でもトップクラスであります。

昭和六十三年度は一三四・〇%の受診率でした。

医療機関に恵まれていることなどもあり、この傾向は今後も続くものと考えられます。

また、受給者数も着実に伸びており、わが町にも、少しずつではありますが、高齢化の波が

押し寄せており、医療費の増加も必至であると考えられます。
“人生八十年時代”を迎えたいま、皆さんが健康で楽しい老後を送るためにも、生きがいを持つなどして、一人ひとりが健康に対する認識を深めることも大切なことです。



豊かな老後を生きる健康作戦

毎日欠かさず運動を。特に歩行習慣を大切に。



十分な睡眠を。そのためには早めに入ることが大切。

●お年寄りの健康生活●

最低でも年1回の健康診断で健康をチェックする。



1日1回は便通を。できれば洋式トイレに。

趣味をもつ。趣味は生きがいとなるばかりでなく、社会的な活動の範囲を広げる。



家庭内での事故や交通事故に注意。

優良 { 国保健康世帯 } を表彰 国保健康老人

昭和六十三年度中(昭和六十二年四月一日から平成元年三月三十一日まで)に、一度も診療を受けなかった健康世帯と健康老人の表彰式が、八月十日町福祉センターで行われました。

この日表彰を受けたのは、六十五世帯の健康世帯と、四十四人の健康老人で、この方々には共通していえることは、常に健康に対する自覚と、自分に適した健康法をもち、実践しているということです。

一人ひとりが『自分の健康は自分で守る』習慣を身につけたいものです。

次に、表彰された健康世帯、健康老人の方々をご紹介します。

健康世帯

敬称略

- ▽十二年連続世帯(二世帯) 菅野秋雄(内谷東)
- ▽十一年連続世帯(二世帯) 吉田タカ(貝田)
- ▽九年連続世帯(二世帯) 引地幸一(駅前)

- ▽六年連続世帯(二世帯) 大竹竹夫(本町)
- ▽五年連続世帯(三世帯) 松浦信(滝山) 佐野正光(第九) 上沢芳正(大木戸)
- ▽四年連続世帯(四世帯) 菊地アサ子(大町南) 佐藤次郎(山崎小館) 鴨田常雄(小坂) 佐藤定次(貝田)
- ▽三年連続世帯(九世帯) 穴戸且郎(山崎小館) 菊地清(源宗山東) 原田清治(太田川) 豊田操(源宗山西) 関本東(板橋) 高橋栄子(太田川) 阿部幸雄(泉田下) 武田富夫(第三) 松浦伍郎(築館)
- ▽二年連続世帯(十二世帯) 秦福壽(錦町) 石川好一(錦町) 暮田種雄(宮東) 菊地吉伴(石母田原) 瀬戸健二郎(駅前) 井砂のり枝(山崎小館) 高橋茂(源宗山西) 佐藤勝男(泉田中) 鈴木フミ(板橋) 鴨田忠

二(内谷東) 引地久夫(徳江北) 阿部奇生(大木戸)

▽一年世帯(三十三世帯)

- ▽新妻準(錦町) 富永和子(錦町) 遠藤重蔵(大町北) 半沢幸祐(宮町南) 秦長蔵(宮町北) 安達正春(鶉町) 小野ウメ子(宮東) 中野浩幸(鶉町) 佐藤まちよ(上野) 佐久間マサイ(上野) 鴨田忠次郎(山崎館) 佐藤直治(山崎館) 松野友治(滝山) 菊地ミサ(滝山) 佐藤亮一(源宗山東) 徳江吉郎(滝山) 大津ケサミ(源宗山西) 高橋文字(板橋) 斎藤隆(源宗山西) 斎藤琴(小坂) 小鹿春治(泉田上) 野村フクキ(泉田上) 武田一郎(泉田下) 高野久吉(鳥取) 村上善衛(徳江北) 大波茂(第九) 後藤忠一(高城) 吉川弥吉(山根) 佐藤正一(並柳) 小林健(中部) 佐藤要蔵(北部) 鈴木富治(中部)
- ▽後藤マツ(錦町) 新妻準(錦町) 宇佐美ヤイ子(錦町) 徳江喜策(宮町南) 秦ミサホ(宮町北) 阿部クラロ(石母田表) 松浦權治郎(石母田西) 高橋市三郎(山崎北) 村上嘉一(山崎北) 吉田ハル(山崎館) 浅野ユイ(滝山) 内村スエイ(太田川) 阿部幸雄(泉田下) 鈴木ヒロノ(太田川) 小野寺テル(泉田中) 田中ハツ(第一) 佐久間八郎(第二) 斎藤小太郎(第四) 斎藤リン(第四) 斎藤兼吉(徳江北) 斎藤イネ(徳江北) 佐藤充作(第七) 佐藤倉治(第十二) 佐藤七イ(第十二) 佐久間一衛(第十二) 菊地久七(第十二) 大槻清(貝田) 阿部クラ(大木戸) 忍いじを(大木戸) 瀬戸トミヨ(中部) 瀬戸周蔵(中部) 小林一助(原町) 鈴木カツ(川内) 鈴木フサノ(川内) 小野ウメ子(宮東) 暮田種雄(宮東) 瀬戸寿郎(上野) 佐久間マサイ(上野) 佐藤まちよ(上野) 高橋政太郎(山崎小館) 黒岩吉武(源宗山西) 吉田マツノ(山崎館) 菅野キヨノ(内谷東) 菊地キチ(第十)

健康老人(44人)

敬称略

ふるさとの文化財

64

森山村国見における二重堀と西根上堰跡

菊池利雄



阿津賀志防壁が、地元で二重堀と呼ばれているような、ほぼ完全な形で現存する遺構として、は未端部に近い西大枝の字下二重堀と、厚樫山麓の旧国道沿いにある森山字東国見地内に見ることができ、ここでは先日筆者が行った標記の現地調査について、簡単なレポートをま

とめてみたい。

森山村の字東国見、西国見は厚樫山の東南麓部に突きでた舌状台地で、南側は瀧川の旧河道(瀧川)に沿って、東側は涌水川によって解折された谷底平地で、台地(標高八十二メートル)と谷低部との比高は約一六メートルをはかる段丘崖をなしており、このことは北西境にある大木戸の竹ノ花は、崖の端をさす地名からも窺い知ることができ、(地名の語源)

この両字の西端石母田村との境に沿って、旧奥州道中が、長坂と呼ばれる傾斜のきつい道が直線状に厚樫山中腹の国見峠へと通じていたが、明治十七八年にかけて、時の県令三島通庸によって現佐藤英夫氏宅の前から東側に大きく迂回する車馬の通れるような道路(旧国道)に付替えがなされている。また、西根上堰は標高約八〇メートルの線に沿って石母田より当東国見地内に流入しており、大木戸村との旧村境下を約五〇メートルにわたって台地を廊下(礼)でくり抜き流れているが、これは明治時代の初めに改良工事が施されたもので、明治十七年に作成された「森山村地籍図」(国見野)によれば、上図のように国見台地の縁の部分

新堰は旧堰と比較して約二四五メートル短かくなっている。

旧国道西側の旧堰跡は約一五〇メートルにわたって、阿津賀志山(中央部の空堀を転用したもので、中央部の土塁跡は東国見と西国見の境で、かつては森山・徳江の人々が前山と呼ばれた厚樫山近辺の草刈山や、森山峠越(小原山)石段(東国見)の入会地へ通う山道として利用がなされており、南側の防壁遺構は良く残されている。この部分については昭和十年頃当時の福島県史跡調査嘱託堀江繁太郎氏が描いた、二重堀のスケッチ(画帳が福島県立図書館で大木戸村郷土誌(小原山)に残されており、北側の空堀遺構が現況、画帳とも明確でないのは、堰廃溝後の埋立てによって原形が失われたことによる。

旧堰はここで旧国道を越えて曲折しながら東国見の五一番・五十二番・五十三番・六〇番の一部には埋め立てられた堰跡が原野状にわずかにその痕跡をとどめている。これから北側の堰跡は、遠藤久幸氏の宅地となって削平され、旧地形は残されていないが、段丘の中腹部を横断しながら佐藤ハツ子宅付近で現在の西根上堰に連らなっている。

献血に116名が協力

七月十七日、県の移動採血車が来町しました。今回は小坂小学校前をはじめ、町内四か所で献血活動を行い、116名(申し込み者は133名)の方々に協力をいただきました。

(順不同・敬称略)

・印の方は四〇cc協力者です(一般協力)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|
| 高橋 長照 | 高橋 秋夫 | 高橋 謙一 | 高橋 謙二 | 高橋 謙三 | 高橋 謙四 | 高橋 謙五 | 高橋 謙六 | 高橋 謙七 | 高橋 謙八 | 高橋 謙九 | 高橋 謙十 | 高橋 謙十一 | 高橋 謙十二 | 高橋 謙十三 | 高橋 謙十四 | 高橋 謙十五 | 高橋 謙十六 | 高橋 謙十七 | 高橋 謙十八 | 高橋 謙十九 | 高橋 謙二十 | 高橋 謙二十一 | 高橋 謙二十二 | 高橋 謙二十三 | 高橋 謙二十四 | 高橋 謙二十五 | 高橋 謙二十六 | 高橋 謙二十七 | 高橋 謙二十八 | 高橋 謙二十九 | 高橋 謙三十 | 高橋 謙三十一 | 高橋 謙三十二 | 高橋 謙三十三 | 高橋 謙三十四 | 高橋 謙三十五 | 高橋 謙三十六 | 高橋 謙三十七 | 高橋 謙三十八 | 高橋 謙三十九 | 高橋 謙四十 | 高橋 謙四十一 | 高橋 謙四十二 | 高橋 謙四十三 | 高橋 謙四十四 | 高橋 謙四十五 | 高橋 謙四十六 | 高橋 謙四十七 | 高橋 謙四十八 | 高橋 謙四十九 | 高橋 謙五十 | 高橋 謙五十一 | 高橋 謙五十二 | 高橋 謙五十三 | 高橋 謙五十四 | 高橋 謙五十五 | 高橋 謙五十六 | 高橋 謙五十七 | 高橋 謙五十八 | 高橋 謙五十九 | 高橋 謙六十 | 高橋 謙六十一 | 高橋 謙六十二 | 高橋 謙六十三 | 高橋 謙六十四 | 高橋 謙六十五 | 高橋 謙六十六 | 高橋 謙六十七 | 高橋 謙六十八 | 高橋 謙六十九 | 高橋 謙七十 | 高橋 謙七十一 | 高橋 謙七十二 | 高橋 謙七十三 | 高橋 謙七十四 | 高橋 謙七十五 | 高橋 謙七十六 | 高橋 謙七十七 | 高橋 謙七十八 | 高橋 謙七十九 | 高橋 謙八十 | 高橋 謙八十一 | 高橋 謙八十二 | 高橋 謙八十三 | 高橋 謙八十四 | 高橋 謙八十五 | 高橋 謙八十六 | 高橋 謙八十七 | 高橋 謙八十八 | 高橋 謙八十九 | 高橋 謙九十 | 高橋 謙九十一 | 高橋 謙九十二 | 高橋 謙九十三 | 高橋 謙九十四 | 高橋 謙九十五 | 高橋 謙九十六 | 高橋 謙九十七 | 高橋 謙九十八 | 高橋 謙九十九 | 高橋 謙百 | 高橋 謙百一 | 高橋 謙百二 | 高橋 謙百三 | 高橋 謙百四 | 高橋 謙百五 | 高橋 謙百六 | 高橋 謙百七 | 高橋 謙百八 | 高橋 謙百九 | 高橋 謙百十 | 高橋 謙百十一 | 高橋 謙百十二 | 高橋 謙百十三 | 高橋 謙百十四 | 高橋 謙百十五 | 高橋 謙百十六 | 高橋 謙百十七 | 高橋 謙百十八 | 高橋 謙百十九 | 高橋 謙百二十 | 高橋 謙百二十一 | 高橋 謙百二十二 | 高橋 謙百二十三 | 高橋 謙百二十四 | 高橋 謙百二十五 | 高橋 謙百二十六 | 高橋 謙百二十七 | 高橋 謙百二十八 | 高橋 謙百二十九 | 高橋 謙百三十 | 高橋 謙百三十一 | 高橋 謙百三十二 | 高橋 謙百三十三 | 高橋 謙百三十四 | 高橋 謙百三十五 | 高橋 謙百三十六 | 高橋 謙百三十七 | 高橋 謙百三十八 | 高橋 謙百三十九 | 高橋 謙百四十 | 高橋 謙百四十一 | 高橋 謙百四十二 | 高橋 謙百四十三 | 高橋 謙百四十四 | 高橋 謙百四十五 | 高橋 謙百四十六 | 高橋 謙百四十七 | 高橋 謙百四十八 | 高橋 謙百四十九 | 高橋 謙百五十 | 高橋 謙百五十一 | 高橋 謙百五十二 | 高橋 謙百五十三 | 高橋 謙百五十四 | 高橋 謙百五十五 | 高橋 謙百五十六 | 高橋 謙百五十七 | 高橋 謙百五十八 | 高橋 謙百五十九 | 高橋 謙百六十 | 高橋 謙百六十一 | 高橋 謙百六十二 | 高橋 謙百六十三 | 高橋 謙百六十四 | 高橋 謙百六十五 | 高橋 謙百六十六 | 高橋 謙百六十七 | 高橋 謙百六十八 | 高橋 謙百六十九 | 高橋 謙百七十 | 高橋 謙百七十一 | 高橋 謙百七十二 | 高橋 謙百七十三 | 高橋 謙百七十四 | 高橋 謙百七十五 | 高橋 謙百七十六 | 高橋 謙百七十七 | 高橋 謙百七十八 | 高橋 謙百七十九 | 高橋 謙百八十 | 高橋 謙百八十一 | 高橋 謙百八十二 | 高橋 謙百八十三 | 高橋 謙百八十四 | 高橋 謙百八十五 | 高橋 謙百八十六 | 高橋 謙百八十七 | 高橋 謙百八十八 | 高橋 謙百八十九 | 高橋 謙百九十 | 高橋 謙百九十一 | 高橋 謙百九十二 | 高橋 謙百九十三 | 高橋 謙百九十四 | 高橋 謙百九十五 | 高橋 謙百九十六 | 高橋 謙百九十七 | 高橋 謙百九十八 | 高橋 謙百九十九 | 高橋 謙百十 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|

松浦惣一さんに 金色有功章

五十回以上の献血協力者に贈られる日本赤十字社の金色有功章が松浦惣一さん(藤田字南三七)に、また、三十回以上協力された平沼浩さん(藤田字南六九)と徳刈栄治さん(藤田字北七〇)のお二人に銀色有功章がそれぞれ手渡されました。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|
| 高橋 謙次 | 高橋 謙三 | 高橋 謙四 | 高橋 謙五 | 高橋 謙六 | 高橋 謙七 | 高橋 謙八 | 高橋 謙九 | 高橋 謙十 | 高橋 謙十一 | 高橋 謙十二 | 高橋 謙十三 | 高橋 謙十四 | 高橋 謙十五 | 高橋 謙十六 | 高橋 謙十七 | 高橋 謙十八 | 高橋 謙十九 | 高橋 謙二十 | 高橋 謙二十一 | 高橋 謙二十二 | 高橋 謙二十三 | 高橋 謙二十四 | 高橋 謙二十五 | 高橋 謙二十六 | 高橋 謙二十七 | 高橋 謙二十八 | 高橋 謙二十九 | 高橋 謙三十 | 高橋 謙三十一 | 高橋 謙三十二 | 高橋 謙三十三 | 高橋 謙三十四 | 高橋 謙三十五 | 高橋 謙三十六 | 高橋 謙三十七 | 高橋 謙三十八 | 高橋 謙三十九 | 高橋 謙四十 | 高橋 謙四十一 | 高橋 謙四十二 | 高橋 謙四十三 | 高橋 謙四十四 | 高橋 謙四十五 | 高橋 謙四十六 | 高橋 謙四十七 | 高橋 謙四十八 | 高橋 謙四十九 | 高橋 謙五十 | 高橋 謙五十一 | 高橋 謙五十二 | 高橋 謙五十三 | 高橋 謙五十四 | 高橋 謙五十五 | 高橋 謙五十六 | 高橋 謙五十七 | 高橋 謙五十八 | 高橋 謙五十九 | 高橋 謙六十 | 高橋 謙六十一 | 高橋 謙六十二 | 高橋 謙六十三 | 高橋 謙六十四 | 高橋 謙六十五 | 高橋 謙六十六 | 高橋 謙六十七 | 高橋 謙六十八 | 高橋 謙六十九 | 高橋 謙七十 | 高橋 謙七十一 | 高橋 謙七十二 | 高橋 謙七十三 | 高橋 謙七十四 | 高橋 謙七十五 | 高橋 謙七十六 | 高橋 謙七十七 | 高橋 謙七十八 | 高橋 謙七十九 | 高橋 謙八十 | 高橋 謙八十一 | 高橋 謙八十二 | 高橋 謙八十三 | 高橋 謙八十四 | 高橋 謙八十五 | 高橋 謙八十六 | 高橋 謙八十七 | 高橋 謙八十八 | 高橋 謙八十九 | 高橋 謙九十 | 高橋 謙九十一 | 高橋 謙九十二 | 高橋 謙九十三 | 高橋 謙九十四 | 高橋 謙九十五 | 高橋 謙九十六 | 高橋 謙九十七 | 高橋 謙九十八 | 高橋 謙九十九 | 高橋 謙百 | 高橋 謙百一 | 高橋 謙百二 | 高橋 謙百三 | 高橋 謙百四 | 高橋 謙百五 | 高橋 謙百六 | 高橋 謙百七 | 高橋 謙百八 | 高橋 謙百九 | 高橋 謙百十 | 高橋 謙百十一 | 高橋 謙百十二 | 高橋 謙百十三 | 高橋 謙百十四 | 高橋 謙百十五 | 高橋 謙百十六 | 高橋 謙百十七 | 高橋 謙百十八 | 高橋 謙百十九 | 高橋 謙百二十 | 高橋 謙百二十一 | 高橋 謙百二十二 | 高橋 謙百二十三 | 高橋 謙百二十四 | 高橋 謙百二十五 | 高橋 謙百二十六 | 高橋 謙百二十七 | 高橋 謙百二十八 | 高橋 謙百二十九 | 高橋 謙百三十 | 高橋 謙百三十一 | 高橋 謙百三十二 | 高橋 謙百三十三 | 高橋 謙百三十四 | 高橋 謙百三十五 | 高橋 謙百三十六 | 高橋 謙百三十七 | 高橋 謙百三十八 | 高橋 謙百三十九 | 高橋 謙百四十 | 高橋 謙百四十一 | 高橋 謙百四十二 | 高橋 謙百四十三 | 高橋 謙百四十四 | 高橋 謙百四十五 | 高橋 謙百四十六 | 高橋 謙百四十七 | 高橋 謙百四十八 | 高橋 謙百四十九 | 高橋 謙百五十 | 高橋 謙百五十一 | 高橋 謙百五十二 | 高橋 謙百五十三 | 高橋 謙百五十四 | 高橋 謙百五十五 | 高橋 謙百五十六 | 高橋 謙百五十七 | 高橋 謙百五十八 | 高橋 謙百五十九 | 高橋 謙百六十 | 高橋 謙百六十一 | 高橋 謙百六十二 | 高橋 謙百六十三 | 高橋 謙百六十四 | 高橋 謙百六十五 | 高橋 謙百六十六 | 高橋 謙百六十七 | 高橋 謙百六十八 | 高橋 謙百六十九 | 高橋 謙百七十 | 高橋 謙百七十一 | 高橋 謙百七十二 | 高橋 謙百七十三 | 高橋 謙百七十四 | 高橋 謙百七十五 | 高橋 謙百七十六 | 高橋 謙百七十七 | 高橋 謙百七十八 | 高橋 謙百七十九 | 高橋 謙百八十 | 高橋 謙百八十一 | 高橋 謙百八十二 | 高橋 謙百八十三 | 高橋 謙百八十四 | 高橋 謙百八十五 | 高橋 謙百八十六 | 高橋 謙百八十七 | 高橋 謙百八十八 | 高橋 謙百八十九 | 高橋 謙百九十 | 高橋 謙百九十一 | 高橋 謙百九十二 | 高橋 謙百九十三 | 高橋 謙百九十四 | 高橋 謙百九十五 | 高橋 謙百九十六 | 高橋 謙百九十七 | 高橋 謙百九十八 | 高橋 謙百九十九 | 高橋 謙百十 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|



電気の安全

使うあなたが主役です

八月は電気使用安全月間です。感電災害は、七月から九月の三か月間に集中して発生しています。夏場は皮膚の露出部分が多く、発汗によって皮膚がぬれるなど、人体の抵抗は小さくなつて電気が通りやすくなります。

また、夏場は疲労から注意力が散漫となりがちなので、この点からも、毎年八月に通商産業省の主唱のもと「電気使用安全運動」が全国一斉に行われます。感電災害を防止するには、不良の電気設備をなくし、みんなが電気の取扱いに注意することが必要です。

ご存知ですか

検察審査会

子どもが交通事故で大けがをした。でも車を運転していた人

は、裁判にもかかれずにいる。おかしい……そんな疑問に検察審査会は答えます。

検察審査会は、国民の中から「くじ」で選ばれた十一人の検察審査員が、市民の目で、検察官が起訴しなかったことが正しかったかどうかを審査することを主な仕事としています。

検察官の不起訴処分に疑問をお持ちの方はご相談ください。詳しくは、福島市花園町五番四十五号福島地方裁判所内福島検察審査会事務局(☎三三四二一五六、内線二七四)へおたずねください。

福島県勤労者

美術展覧会の

作品を募集



福島県、福島県教育委員会、福島県労政協会主催、福島県労働福祉協議会、福島県労働金庫など後援の第二十八回福島県勤労者美術展覧会の作品を次のとおり募集します。

作品の規格

日本画 六号から百号まで。
洋画 日本画に準ずる。

書 額装仕上り90cm×212cm以内または136cm×

136cm以内。(刻字を含む)

写真 四ツ切以上。組写真し、レイアウトを付すること。

装丁

(一)日本画・洋画・書については額装し、写真についてはパネル張りとする。
(二)各部門ともガラスを使用しないこと。(アクリルは可)

(三)作品の裏に、掲示用のフック・紐などを付けること。

出品者

県内の勤労者の作品で未発表のもの。

出品点数

一種目一点とする。

出品手続

出品は、所定の用紙に所使用事項を記入し、作品搬入と同時に提出すること。

会期

九月七日(木)～九月十日(日)

会場

福島県文化センター 三階展示室

搬入

九月一日 十一時～十九時
福島県文化センター西口

※詳しくは、福島県労政課(☎二一〇一一、内線四〇七三)までおたずねください。

あの人は

今どこに

県警では、例年、お盆の時期に家出人の所在確認や身元不明死者の身元確認する活動を行っています。県内で家出などにより行方がわからない方は、過去十年で約五百人もおり、自殺や事故で亡くなったのに身元が判明していない方は六十五人に達しています。

このため、八月の中の一か月間を「家出人、行方不明者をさがす月間」として、警察本部鑑識課及び各警察署に相談所を常設し、相談をお受けしています。

行方不明者

発見のために

家出人捜索の届出は、届出人の住所を管轄する警察署で受理しています。

警察署では、家出人の家族などから事情を聞き、家出人が立ち寄ると思われる地域の警察署へ捜索の手配を行って発見、保護に努めています。

一定期間経過してもなお発見されない場合は、家出人の氏名、身体特徴、着衣、所持品などを記載し、顔写真を貼った資料を作成して各都道府県警察本部へ送り、身元不明死者の資料との

対照を行い、身元の確認に努めています。

家出人捜索についてのお問い合わせは桑折警察署藤田駐在所(☎八五一〇五九)まで。

若者の無謀運転を防止しましょう

暴走の終点は

悲劇の始まり

若いドライバーによる事故では、スピードの出し過ぎや信号無視など無謀を運転によるものが、大変目立っています。

レーサー気取りでスピードを楽しむ若者が多く見られますが、危険を知ったうえで自分の技量に合わせた余裕のある運転に努めることが大切です。

追放しよう!

暴走族

最近の暴走族は、深夜ゲリラ型に出没し、周囲の迷惑を顧みないばかりか、強盗や窃盗などの凶悪な犯罪を敢行するように変わってきています。

暴走族を見たときは、ためらわず110番をお願いします。

今月の納税

今月は、町県民税・国保税の納税の月です。

お忘れなく、納期限(八月三十一日)までに納入しましょう。

くらしの ミニアンテナ

最近、砂糖・大豆などの商品先物取引をしている業者が「2、3ヶ月で20万の利子をつけてお返しします」「銀行利子よりお得です」などと言葉巧みに盛んに電話勧誘しています。くれぐれもご注意ください。

け話にはご用心ください。
商品先物取引とは、ある商品の価格が将来上がることを見込んで投資し、相場の変動によって利益を稼ぐ商法です。

この商法は、仕組みが専門的で、一般の人にはなかなか理解しにくいものです。そこにつけこんで、むずかしい表現や専門用語を使って、ケムに巻きまわるとても素人が気楽に始められる性質のものではありません。

どんなに誘われても断固拒否すべきです。

万一、こんなケースでお困りの方は、早急に県消費生活センター(☎二二〇九九九)へご相談ください。

公立藤田病院組合 職員を募集

平成2年度採用の公立藤田病院組合職員(大学卒程度)採用候補者試験を次により行います。

- 一、試験職種及び採用予定人員
一般事務 若干名
- 二、受験資格(大学卒程度)
昭和41年4月2日から昭和43年4月1日までに生まれた者で、平成2年3月までに大学卒業見込みの者。
- 三、試験の期日及び場所
平成元年10月1日(日)
午前9時から受付

福島県自治会館(県庁西隣り)二次試験については合格者に通知します。

四 受験手続及び受付期間

(一)申込用紙は公立藤田総合病院で交付します。

(二)申込用紙に必要事項を記入して公立藤田総合病院に提出してください。受験票を受領したときは、最近6か月以内に撮影した本人の写真(上半身、脱帽、正面向き、縦6cm×横4.5cm)をはって、受験当日に必ず持参してください。

(三)受付期間は8月1日から8月31日まで(執務時間中に限りです)郵送の場合も、8月28日までの消印有効。詳しくは、公立藤田総合病院庶務課(☎八五二二二二)におたずねください。

戸籍の窓口

(7月受付分)

出生おめでとうございます

子の名	保護者	町内会
亮(りょう)	佐藤 浩	北町大
七恵(ななえ)	尾形 広治	北町宮
文音(あやね)	井砂 秀明	北町部
真季子(まきこ)	本田 清美	東町宮
佑衣(ゆい)	八巻 保一	南町大

結婚おめでとうございます

氏名	町内会
石川 満流	北町大
古瀬 文子	福島市

おくやみ申し上げます

氏名	年齢	町内会
熊坂 サツ	83	東町内
渡辺 カネ	89	寺光明
後藤 生人	54	山西宗源
松浦 ウメヲ	76	柳並
鈴木 金太郎	68	内川
三木 ミチ子	60	小館山崎

9月9日は「救急の日」

あなたのまわりに、もしけが人や急病人が出たらどうされますか。慌ててしまつて戸惑つた経験はありませんか。

救急隊が到着するまでの適切な応急手当が、その人の生命を守ります。

この機会に、応急手当の知識を身につけてみましょう。

消防署では、八月十五日から九月十四日まで「救急応急手当講習会」を開催いたしますので、多数受講されますようお願いいたします。

なお、この講習会は団体、グループ単位で実施することとしておりますので、希望される団体などは伊達地方消防組合西分署(☎八二二二九九)までお問い合わせください。

人口と世帯

8月1日現在(前月比)7月中のうごき

男	5,732人 (-3)	転入	7人
女	6,213人 (-6)	転出	15人
計	11,945人 (-9)	出生	5人
世帯数	2,925戸 (-1)	死亡	6人

心配ごと相談日

場所: 役場二階相談室 (東側入口からお入り下さい)

時間: 9時~12時

こまつたことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

(相談員)

8月25日(金)	吉田 三夫・長谷川ケン
9月5日(火)	阿部 俊恒・村上ミチ子
9月14日(木)	後藤 一・玉手マルヨ



8月 葉月(はづき) 9月 長月(ながつき)

17日(木)	満月	1日(金)	二百十日
23日(水)	処暑		防災の日
26日(土)	小中学校 二学期始業式	9日(土)	救急の日
		14日(木)	十五夜
30日(水)	防災週間	15日(金)	敬老の日



国見町公民館
☎85-2676
(有)4156

阿津賀志学級

活発な趣味のグループ学習

阿津賀志学級は六十才以上を対象とし、開設の目的、努力事項に基づき学習課題を設定し、年間十五回の全体学習会を予定しています。

学級生三百四名が受講していますが、更に個々の趣味や教養を身につけられるよう主体的な学習の機会を設けるために、趣

味のグループ学習を取り入れていきます。

今年度も、園芸、手芸、書道、ゲートボール、社交ダンスの五グループがあり、自分の好きなグループに自由に入ることができ、希望によっては二つ以上のグループで学習することもできるようにするため、学習日を重複させないようにしています。

出席率も八十%前後とよい状況です。これも、ご多忙のごころ、個々に即して懇切丁寧に指導して下さる講師の先生方のおかげであると感謝いたしますとともに、学級生の相互学習をとおして教え合い、学び合うことにより、親睦と連帯意識がますます深まってきたからだと思います。

今後より充実した学習になるよう運営したいと思っております。数多くの方々の出席を期待しております。



▲毎回多くの学級生が参加

塚野目チームが優勝

少年ソフトボール大会

第十回町の少年ソフトボール大会は、教育委員会、公民館主催で、去る七月三十日、山崎グラウンドで行われました。

大会には町内各地区の小学校四年〜六年の男女児童で編成する八チームが参加し、トーナメント戦で熱戦が展開されました。この結果、塚野目チームが優勝、準優勝宮北チーム、第三位は大木戸Aチームでした。



▲各試合とも熱戦を展開

増進を図り、リズム感を身につけようと毎週ダンスを楽しんでおります。

今回、次の要領により初心者を集集しておりますので、奮ってご入会ください。

記

一、練習日 九月一日(金)より 毎週月曜日

午後七時三十分から

三場 所 国見町福祉センター

三持参するものズツク

四、連絡先

国見町大字山崎字宮前25ノ1

井砂のり枝

(☎八五―二九二〇)

少年仲間づくり教室

キャンプ研修実施される

七月二十二日から三日間、町内の小学生が一同に会し、より多くの友達をつくり、友情を深め、心身共に健康な体をつくることをめざして行われました。

キャンプには三十二名が参加して、宮城県白石市福岡にある国立南蔵王青少年野営場で二泊三日で実施されました。

研修は、テント設営、蔵王山麓でのハイキング、キャンプファイヤー、班ごとに自らの炊飯活動などバラエティーに富んだ内容に元氣十杯楽しみました。

初心者募集中

国見ダンス

愛好会

国見ダンス愛好会では、健康



▲参加者全員で記念撮影

スポーツだより

◇第8回町長杯争奪ナイターソフトボール大会
とき 9月1日(金)より
県北中グラウンド

◇伊達スポーツ大会
とき 9月3日(日) 予備日9月10日(日)
町民テニスコート

ひさんなキャンプ

藤田小五年 武田 亜弓

生まれて初めてのキャンプなので、ちょっときんちょうしたようだけれどもとても良い経験をしました。今はキャンプなんか家族で行くけれど、うちのお父さんとお母さんは、みんなのお父さんお母さんよりちょっと年をとっているから、テントの組み立て方もわかりません。スキーもそうだから、このままではどこにも行けなくなるのではないかなと思って、キャンプに参加しました。

今年、南蔵王に行きました。テントは広い十人用だったけど、夜、ねる時はせまく感じました。テントの真ん中に鉄のぼうがあり、それを区切りに入口の方に三人、ちょっと真ん中にねる人がぼうがじゃやと、真ん中よりも左にねてしまいました。だから、左側の方が一人づつづられて、私が一番はしにいたので地面にはみ出してしまいました。都合がいことに、そこはちょっと坂になっていて、テントのある所があいていて、ずるずる下がってきてしまいました。とてもひさんだったと思いました。はじっこの方にねなければよか

ったと思い、もし、来年も参加したら、ぜったいすみの方にはねないぞーと思いました。



▲まずはテント設置

はじめてのキャンプ

藤田小五年 本田 若子

七月二十二日、わたしには、はじめてのキャンプです。そのキャンプの中でも、一番楽しかったのは、すい飯活動でした。

食事のしたくをするとき、わたしは決まってご飯たきをやりました。

最初、飯ごうに、米を入れましたが、米ときはみんなできましたが、水を入れる分量がわからなくて大変でした。

多目に入れたり、少なく入れたり、あんまりいいご飯ができ

なくて、二十四日の朝は、おかにちかいかいものになってしまいました。

まきをくべるときは、山のようになし立てておかないとあまりよくもえません。最初は細いたきつけの木をくべていきます。

パチパチパチパチ

しばらくするとけむりが出てきます。わたしは、かまどの後ろに立っていたので、けむりでむせてしまいました。

後から後から木をくべると、音を立てて火の粉がとびます。ときどき、火が弱まると、息を強くはいて風を送ります。

しばらくそんなことをくり返していると、飯ごうの中からさつき入れてきた米じるがでてきます。それが出なくなるまでやり、かわいてのりになるまでたくのぞそうです。それを待っている時間がわたしには、長く感じられました。

本当は、料理をやっている人達の所へ行こうかなと思ったのですが、やっぱり、ご飯たきの係なのだから、ここで待っていいよーと思います。

すると、出てきた米じるが、飯ごうにくっついて、かたまってきました。

「やったあ。」

他の班よりも速くできました。後は、飯ごうをひっくり返してむすだけです。

自分たちだけで作ったごはんのおいしさは格別でした。

キャンプに参加して

大木戸小五年 岡田セイ子

私は、国見町少年仲間づくり教室のキャンプに参加したのは今年で二度目です。去年は霊山でのキャンプでしたが、残念ながら、私はピアノの発表会のためにみんなより早く帰ってきてしまいました。今年は最後までみんなと参加できるのを楽しみにしていました。でも期待していたよりつまらなかったのは、残念でした。なぜかということ、ハイキングの途中で雨がふってきてもどったこと、いつも早ね、早起き？こと、いつも早いみん時間たたくさんにとっていたのですが、みんな早く起きたので、私も起きてしまっって朝半分、ねむたかったからです。

一日目は、南蔵王に着いてから、私はテントの組み立てをやりましたが、なかなかじょうずにできませんでした。昼食を作ってもらい……と言っても、とん汁ですけど、みんなで食べる



▲きょうのメニューは？

のは、いつもおいしいです。夕食は「カレーとサラダ」とてもおいしいかったです。「ハイキング」は、私は初めての経験だったので、楽しみにしていたけれど、半分ぐらい歩いたら、雨がふってきて、もどってしまいました。とてもきんねんでした。夜につかれてしまいました。そのキャンプファイヤーは各班の出し物がとてもじょうずで、おもしろかったです。私の班は、げきで、「うらしまじいさん、ばあさん」というのをやりました。私は、ばあさんの役でしたが、セリフを忘れてしまい、失敗してしまいました。

三日間の内で、一番おもしろかったです。とってもつかれました。

わだ い



さわやか

ミスビーチ

モモの最盛期を迎えた七月二十六日、おいしい福島のかだものを全国にPRする「80ミスビーチ」が役場を訪れました。

この日訪問したミスビーチは、柳橋修子さん(20)、中山真実さん(18)、唯木宏美さん(21)、渡辺典子さん(22)、海老名祐子さん(19)。今年で第二十七代目の



▲ミスビーチが富永町長を表敬訪問

ミスビーチ十人のうちの五人で、柳橋さんらは「甘く、おいしい、福島産のモモをはじめ、ナシ、リンゴなどを全国に売り込みます」と語っていました。

今後、ミスビーチは福島駅新幹線ホームでの即売PRやテレビ出演など、東京・大阪班と東北・北海道班に分かれて販売PRに活躍します。

素晴らしい演奏に

うっとり

国見町大枝ふる里祭りが、七月二十一日、西大枝の大枝広場で行われました。

全国各地でふるさと創生がクローズアップされている中、夏休みの青少年の健全育成と地域の活性化を図り、村おこしに役立てようと国見町大枝ふる里祭り実行委員会(玉手忠一委員長)が主催して開いたものです。

当日は、海上自衛隊横須賀音楽隊(青木凱征隊長)の隊員四十名を迎え、「ラッパ吹きの休日」「オーバー・ザ・レインボー」「キャリオカ」「横須賀ストーリー」などを演奏し、訪れた多くの

の歓衆を魅了しました。横須賀音楽隊の皆さんは高度な演奏技術をもち、国内はもとより世界各国での演奏活動を通じ、国際親善にも大きな役割を果たしています。

演奏会に続いてカラオケ大会も行われ、二十人が日ごろのノドを競い合い、にぎやかで楽しい交流を繰り広げました。



▲聴衆を魅了した海上自衛隊横須賀音楽隊

薬草教室

開かれる

町保健課と町健康づくり推進協議会が、健康づくり推進の一環として開催した「薬草教室」

が、七月二十日、町福祉センターで行われました。

当日は、日本園芸協会指導委員などを務める薬草研究家の大沢京先生を講師に迎え、参加さ

れた約四十人の皆さんは、熱心に講義に聞き入っていました。講演は身近にある薬草の採取と調整法、その効用などについて詳しい説明があり、受講された皆さんから多くの質問が出され熱の入ったものになりました。



▲熱心に講義を聴く参加者の皆さん

大にぎわい

納涼歩行者天国

町商工会青年部(岡崎長市市長)が、商店街と町の活性化を図ろうと、八月五日午後四時から「第二回納涼歩行者天国」を開催しました。

町中心部の旧四号国道約二百六十メートルを会場にもちつき、風船割り、ジャンケン、腕相撲のイベントが繰り広げられ、たくさんの子どもたちでにぎわいました。

また、午後七時からは会場中央の沢屋酒店前に設けられた特設やぐらを囲み、盆踊りがスタート。ゆかた姿や仮装に身を包んだ大勢の人たちが、祭りを盛り上げました。



▲雨にもかかわらず踊りの輪が広がる

編集日記

○夏本番を迎え、各地でにぎやかに夏祭りが開催されています。私たちが町の町で恒例の花火大会、納涼歩行者天国などが行われています。夏の楽しい思い出をたくさんつくって欲しいものです。

○8月6日台風13号が福島県を直撃。最盛期を迎えた桃の落下、道路の損壊などの被害が発生。テレビで各地の被害状況が報道されるたびに、ちょうど3年前の8・5水害を思い出します。